

# 五十年の歩み

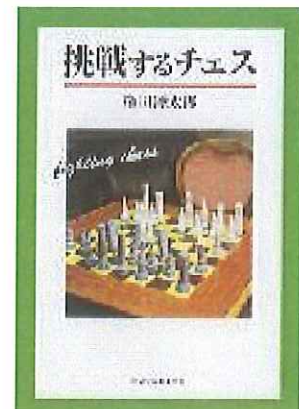
麻布学園チェス部  
設立五十周年記念誌

麻布学園チェス部

権田源太郎氏 (1950.02.06 - 2023.11.10)

麻布学園及び慶應義塾大学卒業。1972年以来通算12回の全日本チェスチャンピオン（戦績は本誌の資料編「日本チェス協会主催公式戦記録（優勝者）」を参照）。権田金属工業（株）社長として多忙な日々を送りながらも、近年に至るまで日本のチェス界のレジェンドとして各種棋戦に参加し好成績を維持し続け、さらにチェス入門書の執筆もこなしてこられた。

麻布学園チェス部との関わりは、日本チェス協会を通じてご縁を頂戴し、1974年5月の文化祭にお越しいただいて5面指しの同時対局を行っていただいたところから始まる。なお、氏の在学中にも短期間ながら麻布学園にチェスサークルが存在した由。



日本チェス協会機関紙『CHESS通信』p.1751 (2012年3月25日) より抜粋。  
左から二人目が権田源太郎氏。なお羽生善治氏の「六段」は将棋の段位ではなくJCA段位。

偉大なる先輩、権田源太郎さんを偲ぶ

吉田 哲郎 (1983年卒)

私がか中1でチェス部に入りチェスを始めた1977年、権田さんは日本チャンピオンを何連覇かされていた雲の上の憧れの方でした。先輩方より、権田さんは麻布のOBで少し前にも文化祭にもいらしたとうかがい、急に親近感と誇らしさを覚えた記憶があります。初めてお目にかかったのは先輩について青山のアジア会館でのチェス協会の公式戦に参加した時だと思

いますが、声をかけていただき非常に緊張しつつも嬉しかったことを覚えています。その後、中3でジュニア選手権で優勝するなどして親しくお話させていただくようになりました。添付はその頃の写真ですが、個性の強いプレーヤーが多かった中で権田さんは誰に対しても優しく、笑顔を絶やさず感想戦をされていたのが眼に浮かびます。公式戦でも数回当たる機会があり、殆ど歯が立ちませんでした。一度だけ高2の百傑戦だったか比較的大きな大会で権田さんの非常に珍しい見落としで一手メイトで勝ちを拾わせていただきました。信じられない気持ちで、何やら申し訳ない気もしましたが、嬉しかったので、しっかりチェス部の部報にその時の棋譜を載せてしまったのをはつきり覚えています。



チェス通信No.15 (1980年5-6月号) P.329 より 右端が権田さん、左端が筆者。

私は大学院に進む頃にはチェスからすっかり離れてしまいましたが、1992年にチェス部20年史をまとめる際に、思い立って図々しくもご寄稿をお願いしたところ、ご快諾いただき後輩への温かいメッセージをいただき感激致しました。それから30年、今回50年記念史をまとめるにあたり、もう一度ご寄稿をお願いしようと思っていたところに今回の訃報に接し、愕然と致しました。今回改めて日本チェス界の記録をまとめる過程で、つい数年前の大会上位者のお名前に60歳を過ぎた権田さんのお名前を発見し、改めて日本チェス界のレジェンドでいらしたと認識を新たに致しました。

私もそうですが社会人になって様々な理由でチェスから離れてしまうOBが多い中で、社長業の激務の中、半世紀に渡ってトッププレーヤーとして活躍された権田さんの日本チェス界に対する貢献は測り知れないものがあります。我々は偉大な先輩をもったことを幸せに思います。安らかに眠りいただき、天国でも国内外のプレーヤーとチェスを存分にお楽しみ下さい。